
碧の詩

えせん

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

碧の詩

【Nコード】

N0728BA

【作者名】

えせん

【あらすじ】

僕が高校時代より趣味で書き溜めていた詩をいくつか紹介します。

ホロウポップ

ここには何も無い
ただ這いつくばって呼吸を試みた
ここでは眠れない
ただまぶたを閉じて耳を澄ました

真つ暗な闇の底から聞こえたのは
僕の鼓動と君の鼓動
空っぽな身体の中が
淡く熱くはじけた

さあ、歌ってあげよう
霞んで見えない空を見上げ
さあ、叫んだ言葉で
地面を激しく蹴っていけ

高く飛び出すのは誰だ？

ここには星がない
ただわからないまま明日に進んだ
ここでは笑えない
ただ涙をこらえて声をぶつけた

真つ白な部屋の空気、響いている
僕の愛撫と君の喘ぎ
汗ばんだ身体の奥で
甘く熱くはじけた

さあ、踊り狂おう

淀んで崩れる街の真ん中

さあ、もがいて吐いて

適度な想いを貫けよ

夢を見下すのは誰だ？

さあ、殴り飛ばそう

何だっていいさ壊せるものは

さあ、すべてを露あつわに脱ぎ捨て
走り出せばいいよ

未来を砕くのは誰だ？

ホロウポップ（後書き）

作：2004.4.12

タカラモノ #2 胸にハート秘めて

束の間の幸せでも
それは確かな喜びで
僕が君を愛していた
十分な証になるだろう

何気ない日々過ごしていたのに
重く降りだす雨は
すべて洗い流していった

小さな地球で小さなこの僕らが
出逢った奇跡も

今はひとつの記憶で
君にあげたハートの首飾りも
あの日深くにしまい込んだ

真っ白な部屋の隅で
埃をかぶったままの
ふたりが寄り添う写真
君がむじゃきに笑っている

もしあの頃に還れるなら
もう一度だけ君を
強く強く抱きしめたい

何も言わずこのままいつてしまうの？
静かに目を閉じた君の頬は冷たく

窓の陽射し

照らされ光る涙

決してこぼさないと誓ったのに…

やがてきらめく夜空に生まれた星

君が笑ってる

どこかそんな気がした

約束しようきみのこと想い続ける

ハートのタカラモノ、胸に秘めて

タカラモノ#2胸にハート秘めて（後書き）

作：2002・10・10

ハローハロー

優しい午後の日差し
僕は部屋にひとり
窓の外を眺めて
観ているのは頭の中

頬杖をついたまま
言葉は置き去りに
昨日の僕を連れて
明日の僕をのぞいた

遠くの声、近く之音
相手にしない、うわの空

ハローハロー
そちら調子はいかがですか？
ハローハロー
なんだか心、クモリのちアメ。

時間に浸ってからふと立ち上がった
冷蔵庫の奥に
真っ赤なリングひとつ

おもむろに齧^{かじ}りつく
少しまだ甘酸っぱい
明日の僕にはもう、たぶん味わえない

甘い夢と渋い日々

逃げ出せない、はさみうち

ハローハロー

そちらまだまだ歩けますか？

ハローハロー

どうやら足がゲンカイみたい、

大事なものの、宝物

部屋の片隅、落としもの

ハローハロー

そちらこれからどうしますか？

ハローハロー

とりあえず今は、明日を待つよ

ハローハロー（後書き）

作：2004.8.16

G

夢うつつ、見た光

湧きあがるものは何？

軽くなる感覚がどこもなく水のよう

いつそ裸になつて溶けてしまえば

日々の何もかもから離れられる

もつと速くなお高く

光の奥に飛び込もう

最高に立ち上がれば

気持ちのリミッター振り切れる

駆けめぐる視覚から

抑えきれぬ感情で

愛の種育ててく

より強く大きくと

遠慮はいらないんだ

目を閉じて

さあ現実を気にせずに

駆け抜けてゆけ

さらけ出して本能を

恥ずかしいなんて野暮でしょう

普段おとなしい人も

隠しているのは淡い“G”

ひとつ残らず全部吐いてしまえば
後味はちよつとしたムナしさだけさ

詰まるところ人はみな
交わる場所を探している
はじけることに一番
幸せを感じるから

G (後書き)

作 : 2004 . 8 . 18

この世が四角く見えた日

せまい地球の上に命つてものがあつて
たくさん生き物が動きまわってる

そんな世界この街

人々がひしめいて

億万の出会いのもと僕が生まれた

流れゆく時の中

絡まり合い繋がって

幸せや不幸とか持ちきれないだろう

運命を信じるかい？

愛を見つけられれば最高の事件なのに

この世はクール

君のその笑顔は一生一番の幸せで

初めての大ニュース

それでも惑星^{ほし}はまわる

今日も陽が昇る

宇宙は広すぎて

人はちっぽけすぎて

どんなに笑つてもどんなに苦しんでも

たった一つだけの小さな小さな変化

どこか素敵で儚い

ロマンティックだね

僕のこの想いは一世一代の覚悟

最初で最後の失敗

それでも宇宙は静か
今日も陽が沈む

彼が出した答え
もう元には戻らない大きいはずの出来事
それでも惑星はまわる
今夜も月はキレイ

この世が四角く見えた日（後書き）

作：2004.8.24

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0728ba/>

碧の詩

2012年1月5日19時45分発行